

【中国のイノベーション、その原動力とは？】

ディープシークの飛躍と今後

～オープンソース AI のビジネス展開の可能性と 日本企業への影響～

— 講師 — ジャーナリスト／千葉大学 客員教授 高口 康太 氏

日時 2025年3月7日（金） 午前10時～12時
受講方法 ライブ配信／アーカイブ配信(2週間、何度でもご視聴可)
会場 SSK セミナールーム 東京都港区西新橋2-6-2 ザイマックス西新橋ビル4F

[重点講義内容]

中国発の AI「ディープシーク」は世界に大きな衝撃をもたらした。低コストでの AI 開発に新たな手法をもたらしたことが、世界の AI 開発トレンドに影響を与えたためだ。なぜ、中国企業はこれほどのイノベーションが可能なのか、その源泉を読み解く。

ディープシークは1月20日の新型モデル発表からわずか10日で、全世界で1億ユーザーを獲得した。無料、しかも第三者が自由に商用利用できる中国製オープンソース AI は今後、世界で、そして日本で普及することは間違いない。その際、中国 AI のイデオロギー偏向が大きな課題として浮上する。この点についても検討したい。

1. ディープシークとはどんな企業？どんな AI か。
2. 米国に与えた影響
3. ユーザーの反応
4. オープンソース AI のビジネスにおける可能性
5. 中国 AI の問題点
6. 日本企業はどう向き合うべきか
7. 質疑応答

PROFILE 高口 康太 (たかぐち こうた) 氏

1976 年生まれ。中国経済、中国企業、在日中国人社会などを中心に『月刊文藝春秋』『週刊東洋経済』『Wedge』『WWD JAPAN』などのメディアに寄稿。『ピークアウトする中国 「殺到する経済」と「合理的バブル」の限界』(文春新書、梶谷懐氏との共著)、『中国“コロナ封じ”の虚実ーデジタル監視は14億人を統制できるか』(中央公論新社)、『幸福な監視国家・中国』(NHK 出版、梶谷懐との共著)、『プロトタイプシティ 深圳と世界的イノベーション』(KADOKAWA、高須正和との共編)など著作多数。

